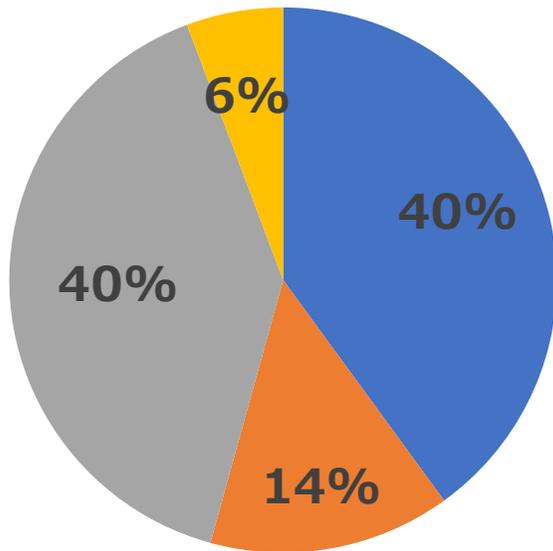


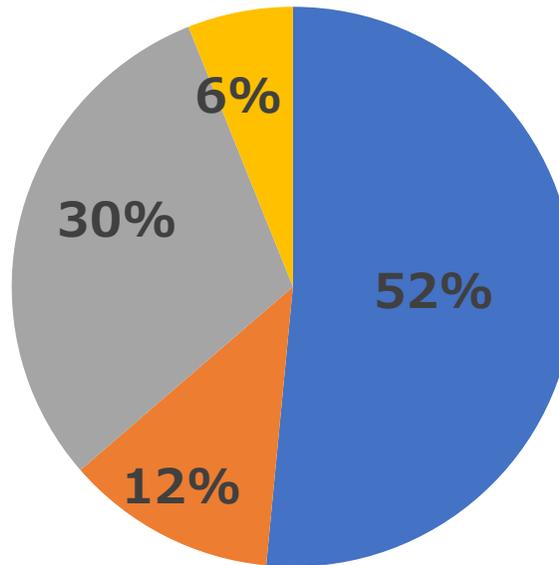
卒業後の進路

2019年度



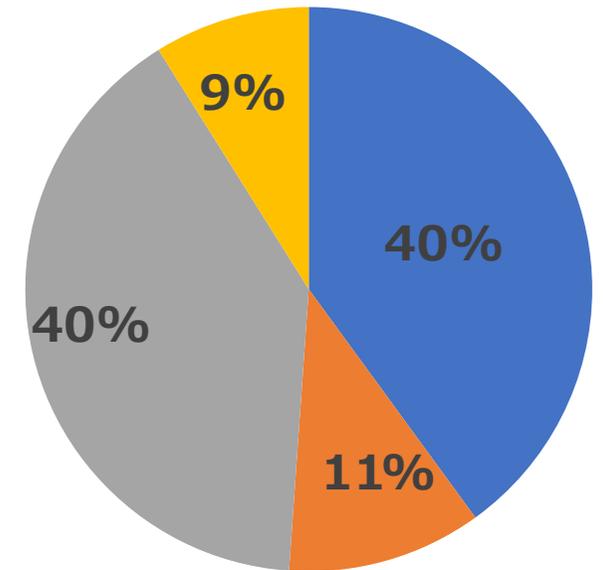
N=35

2020年度



N=33

2021年度



N=45

■ 進学（学内）

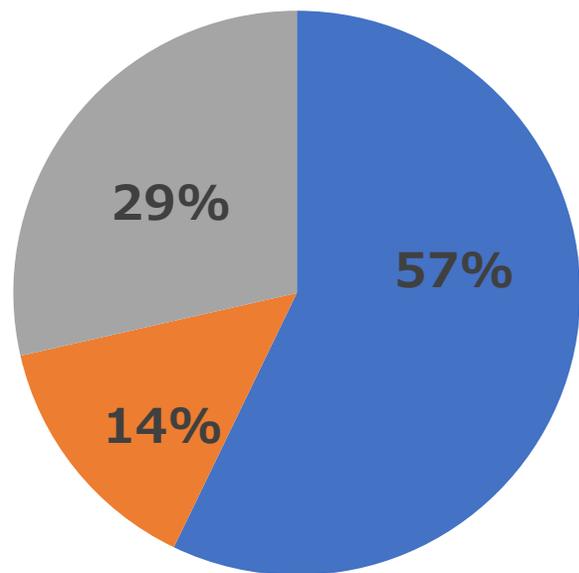
■ 進学（他大学）

■ 就職

■ 未定

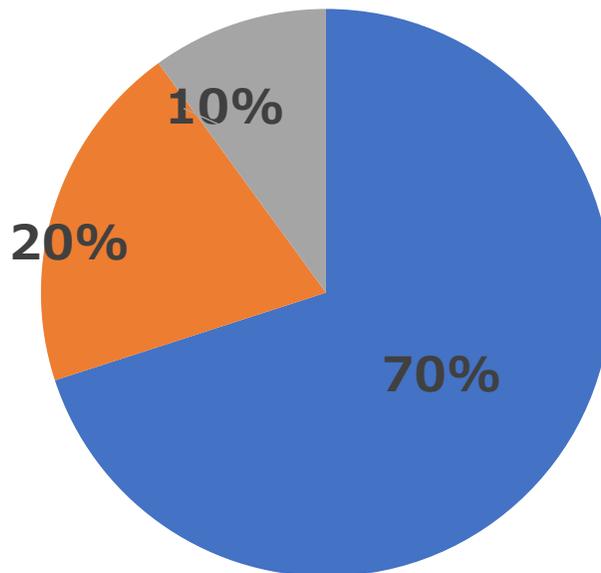
本副専攻を履修したことが就職活動に役立ったか？

2019年度



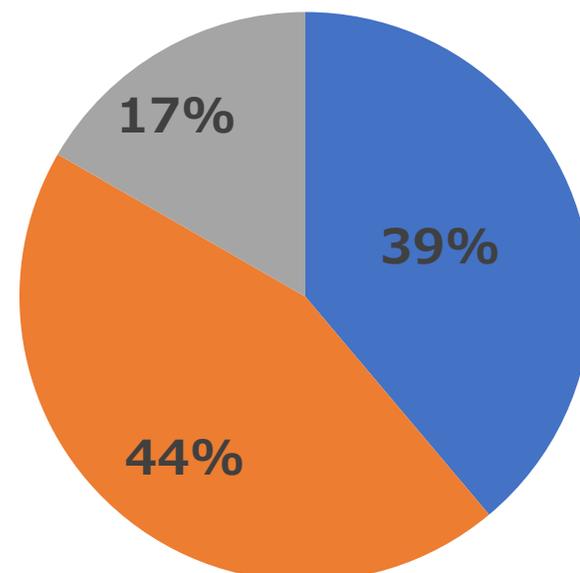
N=14

2020年度



N=10

2021年度



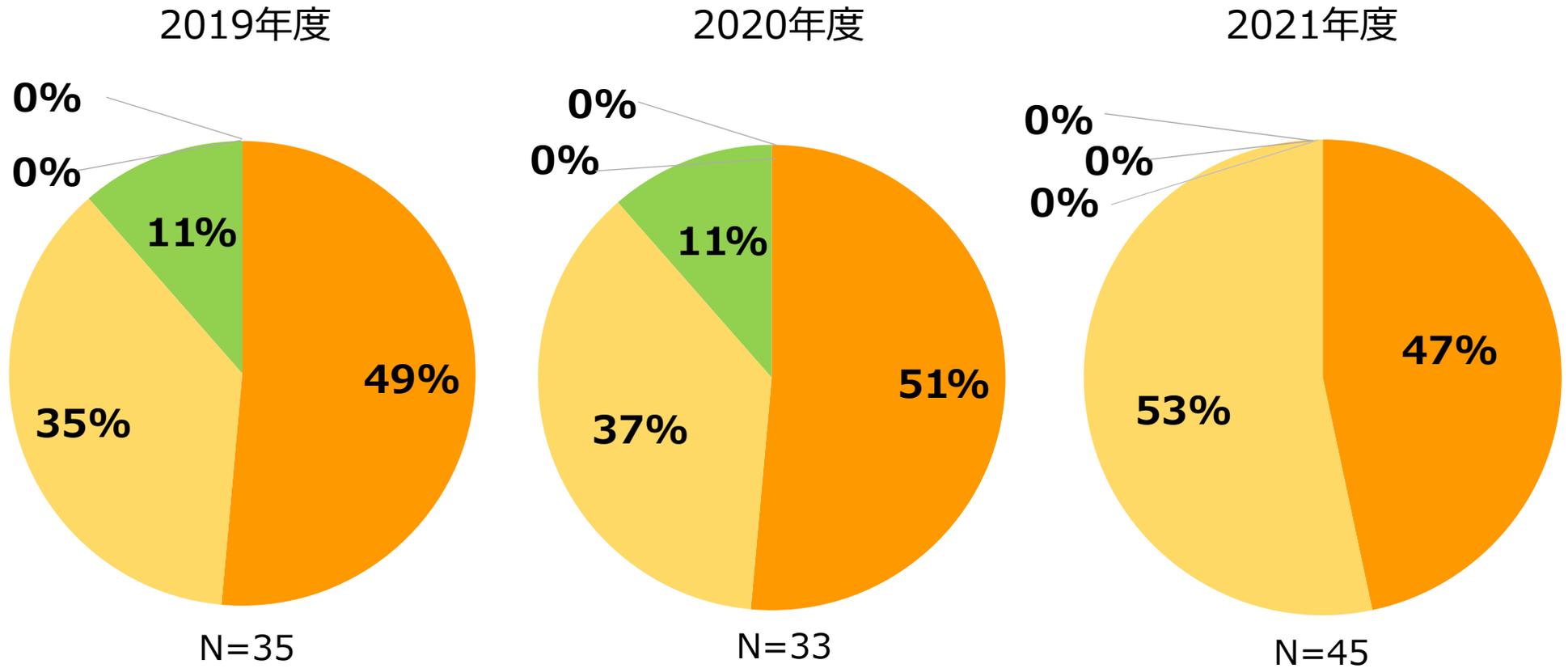
N=18

■ 役立った

■ どちらともいえない

■ サイエンスコミュニケーターとは関係しない業種・職種を対象に就職活動をした

副専攻を履修して良かったか？



非常に良かった

どちらともいえない

まったく良くなかった

まあ良かった

あまり良くなかった

各年度4年次生へのアンケート調査より

修了生のコメント

- 文系理系という学問の分野の分け方などの考え方が大きく変わりました。どの分野でも全ての分野の学問が大切になることを実感しました。また、本副専攻を受講することで学部で学んだ内容を実際に社会で役立てる練習を行えたのが良かったです。
- サイエンスコミュニケーションの幅広い素養について学べた点が良かったと感じている。プレゼンの技法や、長い文章（ないしは書籍）・動画という媒体での科学の伝え方を学んだ。これらは大学院進学後、そして社会に出た後にも大いに活用可能な生きた技能になったと感じている。
- 学びに対する視野が大きく広がったと実感している。これまで生命科学にばかり固執していた考え方を改めることができたことで、他の学問領域への興味が広がった。このことは、社会に出てから狭い視野で物事を判断してしまいうのではなく、複数の学問領域の立場から慎重に判断をおこなうために重要であると考えます。
- 将来のキャリア選択の幅が広がったと実感している。キャリアの選択肢として、大学入学時は理科教師または研究者のどちらかになりたいと考えていた。しかし、本副専攻での学びを通じて、企業の広報や出版社など、サイエンスコミュニケーターとして活躍できる職種への憧れも強まっていった。
- スキルを身につけられるだけでなく、幅広い視野を持つことができたという点で、本副専攻を履修して良かったと感じている。